

2013年度 同志社大学大学院司法研究科
入学試験

刑事法
(刑法)

解答用紙は問題ごとに分かれていますので、注意すること。

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけません。
2. 資料として配付する六法はケースに入れて机の上に置き、試験開始の合図があるまで、開けてはいけません。また、六法に傍線等書き込みや折り曲げをしてはいけません。
3. 筆記用具（ペンまたは黒鉛筆（HB または B））、消しゴム、下敷き（ただし、下敷き使用の場合は許可を得ること）、時計（時計機能だけのもので、秒針が音を刻むことがないものに限る）、鉛筆削り（電動式は除く）、その他特に許可したもののほかは使用できない。HB・B以外の硬度の鉛筆やシャープペンシルを使用して判読しにくい文字にならないよう注意すること。これ以外の携帯品は、試験監督者の指示にしたがって試験開始までに所定の場所に置くこと。修正液、修正テープの使用は認めない。なお、ラインマーカーや色鉛筆の使用は、問題検討のために問題紙に限り使用を認める。解答用紙や資料として配布する六法への使用は認めない。
4. 問題紙の本文は、2頁である。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
5. 解答用紙は、第1問が2枚1組、第2問が2枚1組の計4枚である。解答用紙の左側にそれぞれ問題番号が記載されているので、必ず対応する解答用紙に解答を記入すること。
6. 各解答用紙の左下に受験番号の記入欄がある。組になっている2枚目以降の解答用紙の受験番号欄にも受験番号を正確・明瞭に記入すること。
7. 試験開始後は、終了まで試験場から退室できない。
8. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示にしたがわない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させることがある。
9. 試験中に気分が悪くなる等やむを得ない場合は、黙って手を挙げ、監督者の指示にしたがうこと。
10. 試験終了の合図とともに、すみやかに筆記具を置き、監督者の指示を待つこと。許可があるまで試験場を退室できない。
11. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。
12. 不正行為防止のため、携帯電話やPHS等の通信機器の使用は認めない。電源を切ってカバン等にしまうこと。
13. 耳栓は監督者からの指示が聞こえないので、使用は認めない。
14. 試験時間中の飲食は禁止するが、水分補給のため、ふた付きのペットボトル（ペットボトル以外は不可）に入った飲料を持ち込んで飲むことは認める。ただし、机には置かず、ふたを閉めて足元に置くこと。机上にこぼしたり、水滴によって解答用紙を汚損しないよう十分注意すること。

2013年度 同志社大学大学院 司法研究科

入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

第1問 (配点：50点)

次の〔設例〕を読んで、XとYの罪責を述べなさい(ただし、特別法違反を除く)。

〔設例〕

XとYは、最近、同人等の居住区域において、某団体の街頭宣伝車(以下、「街宣車」という。)による街宣活動が頻繁に行われるようになったことに対して憤懣やるかたない気持ちを、お互いに抱いていた。

某日午後3時頃、いつものように街宣車が街宣活動を始めたことから、XとYは、それぞれカメラを首に掛けて、道路脇に立ち、当該街宣活動を眺めていた。同所を街宣車で通り掛かったVは、「写真を撮るなよ。こら。」等と怒鳴りながら、街宣車を降りてX等に近付き、いきなりXのカメラを奪い取ろうとした。そこでXは、カメラを取り上げられないように、Yに加勢を求め、XがVの右手をねじ上げるとともに、YがVの肩を強く押したところ、Vはバランスを崩し地面にひっくり返った。そこで、XとYは、その場を立ち去ろうとした。しかし、Vが起き上がって街宣車に戻ろうとしたので、これを見たYは、引き返して「二度と街宣やるなよ。」等と怒鳴りつつ、Vを再び引き倒し、その右足ふくらはぎ部分を蹴飛ばし同部位に全治10日間の打撲傷を負わせた。

2013年度 同志社大学大学院 司法研究科

入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

第2問 (配点：50点)

次の〔設例〕を読んで、Xの罪責を述べなさい(ただし、特別法違反を除く)。

〔設例〕

Xは、金遣いが荒く生活費に窮するようになったことから、知り合いのVの家に行き、Vに借金を申し込んだ。しかし、Vがこれを断ったため、Xは、Vと口論になり、両手でVの胸を一度押した。Xは、Vにけがをさせるつもりはなかったが、Vは、Xに押されて転倒し、テーブルの角に頭をぶつけて、動かなくなった。Xがあわてて近寄ると、Vは、頭から血を流し、意識を失っていた。Xは、Vの意識を取り戻そうとしてVの身体をゆすったが、その際、Vの上着のポケットに財布が入っているのを発見した。金に困っていたXは、Vが意識を失っている間に財布を持ち去ろうと決意し、Vの上着から現金10万円の入った財布を取り出し、Xの鞆の中に入れた。そのとき、Vが意識を取り戻し、上着に入れていた自分の財布がなくなっていることに気づき、Xが財布を奪ったと察した。Vは、ふらふらしながら起き上がり、Xに対し、「待て。財布を返せ。」と言ってXを追いかけようとした。そこで、Xは、財布を奪い返されないよう、Vの腹部を2度蹴り、Vを再び転倒させた。Vは、Xに蹴られたことによって傷害は負わなかったが、転倒したまま起き上がれずいたため、その間に、Xは、Vの財布を持ってVの家から逃走した。

2013年度 同志社大学大学院司法研究科 入学試験

刑事法 (刑事訴訟法)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけない。
2. 資料として配付する六法はケースに入れて机の上に置き、試験開始の合図があるまで、開けてはいけない。また、六法に傍線等書き込みや折り曲げをしてはいけない。
3. 筆記用具（ペンまたは黒鉛筆（HB または B））、消しゴム、下敷き（ただし、下敷き使用の場合は許可を得ること）、時計（時計機能だけのもので、秒針が音を刻むことがないものに限る）、鉛筆削り（電動式は除く）、その他特に許可したもののほかは使用できない。HB・B 以外の硬度の鉛筆やシャープペンシルを使用して判読しにくい文字にならないよう注意すること。これ以外の携帯品は、試験監督者の指示にしたがって試験開始までに所定の場所に置くこと。修正液、修正テープの使用は認めない。なお、ラインマーカーや色鉛筆の使用は、問題検討のために問題紙に限り使用を認める。解答用紙や資料として配布する六法への使用は認めない。
4. 問題紙の本文は、1 頁である。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
5. 解答用紙は、3 枚 1 組である。
6. 各解答用紙の左下に受験番号の記入欄がある。組になっている 2 枚目以降の解答用紙の受験番号欄にも受験番号を正確・明瞭に記入すること。
7. 試験開始後は、終了まで試験場から退室できない。
8. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示にしたがわない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させることがある。
9. 試験中に気分が悪くなる等やむを得ない場合は、黙って手を挙げ、監督者の指示にしたがうこと。
10. 試験終了の合図とともに、すみやかに筆記具を置き、監督者の指示を待つこと。許可があるまで試験場を退室できない。
11. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。
12. 不正行為防止のため、携帯電話や PHS 等の通信機器の使用は認めない。電源を切ってカバン等にしまうこと。
13. 耳栓は監督者からの指示が聞こえないので、使用は認めない。
14. 試験時間中の飲食は禁止するが、水分補給のため、ふた付きのペットボトル（ペットボトル以外は不可）に入った飲料を持ち込んで飲むことは認める。ただし、机の上には置かず、ふたを閉めて足元に置くこと。机の上にこぼしたり、水滴によって解答用紙を汚損しないよう十分注意すること。

2013年度 同志社大学大学院 司法研究科

入学試験問題 法律科目試験

(刑事訴訟法)

[設例]

1 Xは、平成24年4月5日、飲酒のうえ、些細なことから、Aに対して、傷害を負わせたが（以下「A事件」という。）、Xには、過去5年間に、いずれも飲酒のうえ、暴行あるいは傷害を加えた事件により罰金刑に処せられた前科5犯があったことから、常習傷害罪（暴力行為等処罰に関する法律1条ノ3）により通常逮捕され、引き続き勾留されて、同罪により起訴（公判請求）された。

Xは、第1回公判期日後の同月30日、保釈された。

ところが、Xは、同年5月15日、飲酒のうえ、些細なことから、Bに対して、その腹部を数回足蹴にし、傷害を負わせたため（以下「B事件」という。）、司法警察員は、同月20日、簡易裁判所裁判官に対して、B事件について常習傷害罪によりXの通常逮捕状を請求した。

2 検察官は、裁判所に対して、A事件の被害者AがXから暴行を受けて傷害を負った旨のAの供述を録取した検察官面前調書の取調べを請求したが、弁護人が「不同意」の意見を述べたので、検察官は、裁判所に対して、Aの証人尋問を請求した。しかし、Aは仕事で米国に出張中であり、帰国は2か月後の予定であることが判明した。

問（1）裁判官は、B事件について常習傷害罪によりXの逮捕状を発付することができるか。（配点：25点）

問（2）裁判所は、上記検察官面前調書を証拠として採用することができるか。（配点：25点）